

## 壬生小学校「授業のユニバーサルデザイン化」の考え方

「授業のユニバーサルデザイン化」とは、  
全員の子どもが、楽しく「わかる・できる」ように工夫・配慮された授業をデザインすること

- 「全員の子ども」とは、その教科の学習が苦手な子や理解が難しい子など、気になる児童のための工夫・配慮が、他の児童にとっても有効な工夫・配慮となることを意味している。
- 「楽しく『わかる・できる』」とは、楽しさの中で、参加しやすさとわかりやすさ（参加と理解）を目指すことを意味している。
- 「工夫」とは、主に教科教育の視点からのアプローチ、  
「配慮」とは、特別支援教育の視点からのアプローチ、その両面があることを意味している。

### 1 UD 授業デザインのための三要件

- 「**焦点化（シンプル）**」…教科の目標をふまえ、その授業のねらいをピンポイントに焦点化する。
- 「**視覚化（ビジュアル）**」…子どもたちが自然に考えて話すように、教材提示を視覚的に工夫する。
- 「**共有化（シェア）**」…考えを整理して、全員の子どもが理解できるように共有化する。

教材に、この三要件を踏まえた「しかけ」をつくることで、全員の子どもが、教師がねらいとして  
いるところに注目し、考えたくなり、話したくなり、「参加できる」授業、「わかる・できる」授業を  
つくっていく。

### 2 教材に「しかけ」をつくる

- 教材に「しかけ」をつくる＝意図的に教材の安定を崩す＝「教材の教材化」  
→不安定感・違和感  
→「話したい」「なんとかしたい」「考えたい」＝子どもが自ら教材に働きかけたくなる。

### 3 教材に「しかけ」をつくる方法…わかりやすいものをピックアップしました！

- ①選択肢をつくる（いくつか正解、すべて正解、すべて間違いなど）
- ②隠す（見せないことも「視覚化」。いったん見せてから隠す、一部隠すなど）
- ③間違える（置き換える、順序を変えるなどもある。誰が間違えるかは実態に応じて要配慮。）

### 参考文献

- 「国語授業のユニバーサルデザイン 全員が楽しく『わかる・できる』国語授業づくり」  
（筑波大学付属小学校 桂 聖 著 東洋館出版社）
- 「算数授業のユニバーサルデザイン 全員で楽しく『数学的な見方・考え方』を身に付ける！」  
（長門市立深川小学校 伊藤 幹哲 著 東洋館出版社）
- 「教材に『しかけ』をつくる国語授業の10の方法 文学アイデア50」「同 説明文アイデア50」  
（桂 聖 編著 授業のユニバーサルデザイン研究会沖縄支部 著 東洋館出版社）